

作物名：キャベツ

病害虫名：モンシロチョウ（学名：*Pieris rapae crucivora*）



卵



幼虫(アオムシ)



寄生された幼虫と寄生蜂の繭

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・ 幼虫(アオムシ)が葉を食害する。
- ・ 若齢幼虫は、主に葉裏から食害して小さな穴をあける。動きは鈍い。
- ・ 中齢期以降の幼虫は、葉の両面から食害して大きな穴をあける。多発すると、葉は網目状に食害され、葉の葉脈のみが残る。結球の内部には食入せず、外側から結球葉を食害する。
- ・ 成虫がほ場で飛翔している場合、葉裏に黄褐色紡錘形の卵がみられる。

2 発生生態及び発生好適条件

- ・ 主に葉裏に産卵し、卵から成虫羽化までの期間は、20℃で25日間である。春から初夏および秋期に発生が多くなり、盛夏期は発生数が少ない。蛹で越冬する。
- ・ 多発後には天敵類の活動が活発になり、急速に個体数が減少する場合が多い。
- ・ 発生量は年によって大きく変動する。

3 防除方法

(1) IPM 体系

- ・ 大麦リビングマルチと他の防除方法(定植前灌注処理, BT 剤)を併用することで、化学合成農薬使用を半減できる。

(2) 耕種的防除

- ・ ほ場周辺のアブラナ科雑草は発生源となるので除草に努める。
- ・ 収穫残さは次世代を増すことになるので、適切に処分する。

(3) 化学的防除

- ・ 育苗期から定植時までは、粒剤や薬液灌注により防除する。
- ・ 農薬への感受性が高いので、発生を確認したら防除する。薬剤抵抗性の発達防止のため、同一作用機構分類に属する剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・ 薬剤は中齢幼虫までに散布すると効果が高いため、早期発見に努め、薬剤は葉裏にも十分かかるように散布する。
- ・ 同じチョウ目害虫の、コナガ、ウワバ類、ヨトウムシ類と同時防除できる。

4 出典

- (1) 参考文献：みやぎの野菜指導指針（宮城県）
農業総覧 病害虫防除・資材編3（農文協）
- (2) 写真：宮城県病害虫防除所撮影

(2021年3月改訂)